

先日、「『こもんじょ』を読んでみよう～古文書から知る石見銀山」という講座で、初体験となる古文書「読み下し」の初級コースに参加しました。(写真)

「まず全体をながめて、読めるところから読んでみましょう！」とのあたたかい講師の言葉に勇気を得て挑戦開始。崩し字や変体仮名に首や頭をひねりながら格闘し、あっという間の2時間でした。

「読めそうな文字を探すこと、たとえば、テニオハの小さな字や、記号、数字や地名、匁など重さ・両や文など金額をあらわした度量衡の単位から、およその内容をつかむことができようになります」「古文書を見るコツは人によって千差万別です。いろいろな角度でながめることを通して、異質であったり読解不能の文字のかたちが少しずつ読めてくるでしょう」とアドバイスをいただきました。

また、参加者からは「文脈をより豊かに味わうために、歴史的背景などの説明も受けたい。現地を訪れる際に楽しみが増えます」との声もありました。古文書をパズル感覚で読み解く楽しみ、深く味わう楽しみ、末永く古文書に触れあっていく良いきっかけとなったと思います。

さて、世界遺産石見銀山遺跡を良好なかたちで未来へ引き継ぐ前提として、今に生きるわたしたちが、歴史を知り、人権確立にむけて学ぶことが

大切です。それを助けてくれるもののひとつが、祖先から伝世した歴史資料です。

しかし、現状では、管理者の不在や死蔵化などにより、不用なものとして消滅や散逸の危機に直面している歴史資料が少なくないと考えています。これらのものを、わたしたちと次世代の貴重な財産として、記録・保存し活用につなげなければなりません。

石見銀山世界遺産センターでは、さまざま体験学習や講座の開催と並行して、石見銀山に関する歴史資料やその情報を全国的に収集しています。皆さまからの情報提供をお願いします。



昨年12月23日(水・祝)開催。初級コースは20名参加

【問】 石見銀山世界遺産センター・資料収集担当
☎ 0854-89-0183 E-mail o-igwhc@iwamigin.jp
ホームページ <http://ginzan.city.ohda.lg.jp/>

ちゃんぽし語録⑧

お彼岸の日、昼食時の会話です。(A)孫、(B)祖母

A: 友達と中日つあんに行くけえ、お小遣いござん?
B: そらええが、無駄遣いすうでないで。

そいだが子どもほどこで行っていいだあ?

A: 高学年になったら行ってもいいだに。

B: そがだかな。ほんでも、行くなら、もほっと食べて行かにはあ、腹がすくでな。

A: そがに食べたら、中日つあんでなんも食べれんようになるけえ、もういいに。

B: 食べてもらわには、ほたもちがあまってあばきがつかんが。

A: 赤やら白やら、そがにようけ作るけえだが。

B: やあれの、はしまんやら夕飯もほたもち食べるだか……。なんとことだかいな! こがあのようけ作らないかったわ!

(解説)

彼岸市「中日つあん」は400年来続く大田の風物詩。駅通りに露店が多く並び、たくさんの人でにぎわっています。これを楽しみにしているのが子どもたち。特に小学校の高学年以上になると子どもだけで行けるとあって、毎回心待ちにしています。

おなじく彼岸の日に作るぼたもち(おはぎ)。家庭によって塩あんや粒あん、きなこなど様々あり、こちらも楽しみです。ところが子どもたちには評判がいまいちで、何食もぼたもちばかり食べる羽目になることも。最近は買って済ます家も多いでしょうが、おふくろの味として大事にしたいものです。

【対訳】

A: 友達と彼岸市に行くからお小遣いちょうだい?

B: それはいいけど無駄使いをするんじゃないよ。けど子どもだけで行っても良いの?

A: 高学年になったら行っても良いんだよ。

B: そうかい。けど、行くのなら、もうちょっと食べていかないと、お腹が減るよ。

A: そんなに食べたら、彼岸市でなんも食べられなくなるから、もういいよ。

B: 食べてもらわないと、ほたもちがあまって仕方ないじゃないの。

A: 赤(小豆あん)のや白(きなこ)のなど、そんなに多く作るからだよ。

B: やれやれ、おやつや夕飯にもほたもちを食べようか……。なんてことでしょう! こんなに多く作らなければ良かったわ!